

学院

キャンパスだより

第8号



光星学院高校専攻科介護福祉科：実習風景

3校学術交流協定を締結

八戸大学人間健康学部「公開講座」開かれる

平成19年度保育者養成懇談会開催 ー八戸短期大学ー
教育講演会開催される ー光星学院高校ー

光星学院高校新校舎へ引越し／後輩に伝えたい就職活動／星の子音楽会



3校学術交流協定を締結



八戸大学と八戸工業大学、八戸工業高等専門学校の学術交流に関する協定の調印式が平成19年10月26日八戸工業大学において行われた。

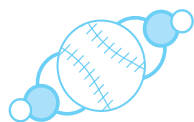
三校間では以前から非常勤講師の派遣や単位互換など個別に交流が行われてきたが、今回、学校間の相互協力の基本方針を明らかにすることを目的とし結ばれた。

調印式には本学から、蛇口浩敬学長と

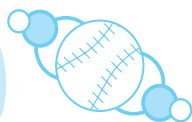
鈴木宏一副学長、田中哲教務部長らが出席、協定事項の確認をした後、協定書に三校の学長が署名した。

終了後の記者会見で蛇口学長は、岩手県で行われている産官学交流組織 INS（岩手ネットワークシステム）を例に挙げながら教養豊かで地域貢献できる人材の育成と三校合同での地域貢献について積極的に進めるよう議論を深めていきたいと抱負を語った。

今後は三校合同での地域貢献や学生教職員の交流、学術推進に関わる情報交換、シンポジウムの開催など地域活性化へ向けて具体的な事業が展開されていく予定である。



光星学院第1回野球教室開催



12月8日(土)八戸市下長屋内トレーニングセンターにおいて、光星学院主催の「第1回野球教室」を開催した。

野球教室では、プロ野球や社会人野球で活躍している八戸大学出身の野里明人選手(七十七銀行)、青山浩二選手(楽天)、内藤雄太選手(横浜)、中原久選手(ホンダ鈴鹿)

や光星学院高校出身の松崎伸吾選手(楽天)、坂本勇人選手(巨人)たちが特別講師をつとめ、地元八戸市の小学生や中学生に野球の楽しさと基礎を指導した。

野球教室は、午前中に小学生の部と午後から中学生の部の2部構成で行われ、午前中の小学生の部には約100人の小学生が参加し、ポジション別のグループに分かれて指導した。

尚、この第1回野球教室は、八戸市教育委員会、八戸市中体連野球競技部、八戸市スポーツ少年団の後援、八戸大学硬

式野球部OB会、光星学院高校硬式野球部OB会の協賛のもと行われた。



ハ戸市文化賞・スポーツ賞受賞者

工藤祐董先生（元ハ戸短期大学副学長・教授）



ハ戸藩の歴史や青森県南部地方の法制史など多数の著書を書き上げてきたことや、長年の地方史の研究に精励してきた工藤祐董先生。その功績が認められ、ハ戸市文化賞を受賞された。

現在85歳。年齢を重ねるたびに病気をしなくなった。と笑顔で話す工藤先生。今でも散歩など身体を動かすことは欠かさない。著書「ハ戸藩の歴史」は人気があり、増刷の問い合わせが増えている。



金淵清文先生（光星学院高等学校教諭）

まずは、日頃からご支援いただいてます関係者の皆様に深く感謝の意を表したいと思います。

私にとって一生のうちの一瞬（レスリング）を賞していただけたということは、大変光栄なことだと思っております。レスリング競技を続けて14年になりますが、賞をいただく度に感謝の気持ちで一杯になります。日頃からご迷惑をお掛けしている方々にも今回は良い報告ができ、多



少恩返しができたかと思います。

今しかできないことを周囲の理解・協力を得ながら続けられている自分が幸せです。これからもたくさんの方々からいただいた多くの激励や指導を胸に精進していく所存です。

今は、14年間の競技生活を振り返り、競技者として生の声を生徒に伝えながら、指導中心の活動をして、生徒と共に全国優勝を目指します。

中村恵美子（旧姓 横町）さん（ハ戸大学商学部卒）

第61回国民体育大会弓道競技遠的の部で優勝し、このたび平成19年度ハ戸市ス



スポーツ賞を受賞でき嬉しく思います。この賞の受賞は初めてで表彰式にも出席することができて大変貴重な体験をすることができました。現在は結婚し、一児の母となり子育て奮闘中の毎日を過ごしています。時間があるときは子どもと一緒に道場に足を運んだりもしています。周囲の声もあり、来年の大分国体を目指すため競技生活に戻れるよう調整中です。

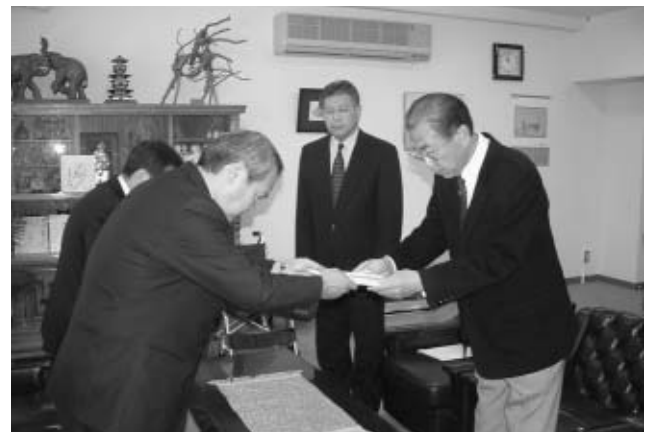


車椅子2台寄贈

11月8日(木)「小さな親切」運動青森県本部（加福善貞本部長）より車椅子2台が本学院に寄贈された。

「小さな親切」運動青森県本部を代表して、青森銀行の高屋敷正取締役ハ戸支店長と石橋寿久本町支店長が本学院を訪れ、中村覺理事長へ目録が渡された。中村覺理事長は「大切にに使わせていただきます」と感謝の言葉を述べた。

寄贈された車椅子は、これから介護、福祉関連の授業を展開しているハ戸大学人間健康学部、ハ戸短期大学幼児保育学科、光星学院高校専攻科介護福祉科の授業・実習で活用される。



「小さな親切」運動青森県本部では、1999年から車椅子の寄贈運動を続けている

光星学院高校 新校舎へ引越し

1月21日(月)光星学院高校では、旧校舎から新校舎への引越しが行なわれ、授業が実施されている。

～新校舎についての説明集会～



1月23日(水)光星学院高校の新しい体育館において、中村覺理事長をはじめ、山西幸子校長ら教職員が出席のもと新校舎についての説明全校集会が行なわれた。集会では、中村覺理事長から「これから新たな50年に向かって、この新校舎で1ページをつくるため、

頑張って欲しい」山西幸子校長は「多くの方々のおかげで新校舎ができました。このような素晴らしい環境で、今まで以上に自分を向上させて過ごして頂きたい」とそれぞれ生徒に挨拶をした。続いて、生徒会長の島守翔吾くんが「旧校舎に名残はあるが、この新校舎で新しい歴史を作り上げたい」と述べた。

また、新校舎の設計・建設をした清水建設株式会社より、建設までの経緯と仕組みなどをスライドを交えながら説明がされた。最後に吹奏楽部による記念演奏が行なわれ、集会を終了した。



職員室の真ん中に廊下があり、生徒と先生が空間を共有できる。



玄関のドアを開けると、広いスペースに新素材の匂いが漂っている。



職員室前のラウンジ。中庭が見渡せる。



事務室の窓からは正面玄関のホールが見渡せる。



体育館2階には、1週120メートルのランニングができるスペースが作られた。

いよいよ就職戦線スタート!! 目指す企業は?

～八戸大学・八戸短期大学合同企業研究会開催～



就職活動の第一歩である大学・短大の学内合同企業研究会を、大学3年生、短大1年生及び希望の学生を対象に12月6日(木)八戸プラザホテルアーバンホールに、69社の企業の方々に参加をいただき開催

した。参加企業は、事前に学生たちにアンケートを実施し依頼した企業、県内31社、県外38社。当日は、短大生や初めて就職活動を行う人間健康学部1回生など115名の学生が会場に足を運んでくれた。最初は緊張感からくる戸惑いなどが見受けられたが、慣れるにつれて興味、関心のある企業のブースを積極的に訪問し、「求める人材」、「事業内容」、「業界」などについて、人事担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。

終了後、人事担当者からは「真面目で非常に礼儀正しい学生たち

で好感が持てます」という感想が多く聞かれ、学生たちも「希望する会社の話を聞けてよかった」、「目指す会社がなんとなく分かった」などと、間近に迫った就職戦線に意欲をにじませていた。担当者としては、今後、希望する会社の内定がいただけるよう、あらゆる面から学生たちをサポートしていきたいと思っています。



八戸大学・八戸短期大学「就職合宿」 人間健康学部1回生「就職合宿」を体験ある。



大学・短大の合同による就職合宿を11月10日(土)、11日(日)の1泊2日の日程で、就職活動を控えている3年生(短大1年生)を対象に八戸よねくらホテルで実施した。当日は、短大生27名を含む75名が参加。今回から新たに人間健康学部の学生も加わり、それぞれの学部、学科の特徴を活かしたカリキュラムを入れるなど、盛りだくさんの内容で、学生たちは本番さながらの面接指導に始まり、エントリーシートや履歴書の書き方などの実践指導を受け、これから迎える就職活動を

前に気を引き締めて臨んでいた。

就職合宿は今回で第13回目です。ジョブカフェあおもりのキャリアカウンセラー7名を講師に迎え、それぞれ10名～11名の少人数の7グループを編成。開会式では鈴木宏一副学長、丹羽浩正就職委員長の激励の言葉があり、1日目は21時まで、2日目は15時まで全体、学部・学科ごと、グループごとにそれぞれみっちり、厳しく、丁寧な指導を受けた。昼食時や休み時間の話題に課題が飛交うほどであった。閉会式での人間健康学部百目木かおりさんの御礼の言葉でもその満足感を窺うことができた。参加した学生も「これからの就職活動に役立つことばか

りであった」、「今まで不安であったことが解消できた」など、参加してよかったという感想を述べていた。

なお、今まで就職合宿に参加した学生の内定率は、毎年ほぼ100%となっています。



ほっ

と
たいむ

私は、小学校の頃から作文など文章を書くのが苦手だった。作文の宿題や課題が出たときは、とても嫌々ながら書いたことを覚えている。中学生の時、担任の先生が国語の担当で、作文の課題が出されてなかなか

書けず苦慮していたときがあった。そのとき担任の先生が、放課後に一緒に残って遅くまで指導していただいたこともあった。ある時、新聞にその時の担任の先生の名前を見つけた。懐かしさに惹かれ、先生の自宅を訪ねた。既に定年退職をしていたし、卒業してから数十年経っていたので、自分のことを覚えているのか心配だった。

「先生、私のこと覚えていますか？」

と訪ねると「作文、頑張ったね」と笑顔で応えてくれた。当時、作文が苦手だった私を熱心に指導してくれたことを鮮明に覚えていてくれた。自分の中にも当時のことが、今この瞬間に蘇ってきた感じがした。何度も何度も書き直し、ようやく書き終えた作文だった。

その作文は当時の文集「はちのへ」に掲載され入選した。(MK)

平成19年度 人間健康学部 「公開講座」 開かれる

八戸大学人間健康学部主催の「公開講座」が平成19年11月10日(土)八戸大学・八戸短期大学総合研究所市内オフィス（八戸市堀端町八戸商工会館6F）で行なわれた。受講料は無料。受講定員20名の一般・高校生が休憩のティータイムを挟んだ4時間にわたる長時間の受講を終えた。受講生は最後まで一次予防の重要性について熱心に耳を傾けていた。



今年度の「公開講座」は「『健康』への招待：一次予防から健康を考える。」をテーマに4名の学部教員によって講義が行なわれた。

本学人間健康学部の遠藤守人教授と吉田稔教授のオーガナイザー・司会のもとに進行された。はじめに、イントロダクションとして遠藤教授より「一次予防の概念及び重要性」についてお話をされ、ついで、畑山俊輝教授による「前向きな心は病気を遠ざける」、桑田正広教授による「栄養素と生物」、藤宮芳章教授による「機能性食品摂取による癌予防：キノコの抗癌効果」、三本木温専講師による「運動で防ぐ生活習慣病」の講義が行なわれた。

終了後の受講者のアンケートからは、「専門分野の視点から、おのおの興味深い話が聴けた。」

「心理的要因と疾病予防、食生活と疾病予防、運動と疾病予防、免疫からみた疾病予防について分かり易い内容で、今日は大変良い収穫を得ました。」等の声が寄せられていた。



看護臨床実習を終えて ～人間健康学部～

看護臨床実習Ⅰ・Ⅱは、将来養護教諭になるために、10月に10日間、12月に10日間の計20日間、青森労災病院（八戸市）で主に整形外科、内科、小児科病棟と、外来で実習をおこなった。

この臨床実習で私は様々なことを学ぶことができた。初めのころは、自分にできることがなかなか見つからず、実習にも消極的で今後どう役立つかとそんなことばかり考えていた。しかし、少しずつ看護師の方に指導していただきながら、直接患者さんと接して自分にもできることがあるとわかり、自信が持てるようになった。毎日いろいろなことを経験し、わからないことは積極的に聞いたり、自分で調べたりして、知識も増えていった。また、講義で学んだことを活かしつつ、実際の臨床の現場では、どう行なわれているのか。その違いなどもわかり、毎日が勉強で日々成長しているのが実感できた。

傷病者と接することはその症状のことを知るということが大切であるが、そのほかにも声をかけながら状態を聞き、観察したり、気持ちの面の考えることができた。これらは将来、養護教諭を目指す私たちにとってとても大切なことだと思う。知識や技術ばかりあっても、状況にすばやく対応でき、相手の気持ちを考えて接することができなければいけないと思う。それが今回の実習を通して実際に患者さんと接し、学ぶことができたと思う。

そして、患者さんに「ありがとう」と言ってもらえたことが一番印象に残っている。つらいのは患者さんのほうなのに、笑顔で言ってもらえてこっちが逆に元気をもらった感じだった。何かして喜んでもらえるということは本当にうれしかった。

たくさんの方々から、いろいろなことを学ぶことができ、つらいこともあった

けどとても良い経験となった。このことをこれからに生かしていきたいと思う。

人間健康学部3年 佐藤春香



後輩に伝えたい就職活動

～内定したビジネス学部生が体験発表会～



12月11日(火)八戸大学 2 号館121講義室で、内定したビジネス学部の学生 5 名が「後輩に伝えたい就職活動のこと」と題して就職活動の体験発表会を開催した。発表会では、普段は聞けない就職活動の生々しい現実が本音で語られ、参加した後輩らにアドバイスがおくられた。

自分のアピールポイントが重要

5 月に内定した田畑涼さん（ビジネス学部 4 年）は、一泊3,000円程度のカプセルホテル等に宿泊しながら、首都圏を中心に30社ほどの会社説明会へ何度も通った。「動いていると（就職活動をしていると）体と頭が働いて積極的に行動できる」と行動することが大事であることをアドバイスした。また「（自分が）



田畑涼さん

バイクで日本一周をしたという行動力が強み」と自分のアピールポイントを最初から決めており、採用試験時に、首都圏の多くの大学の学生たちと面接を受け自分のアピールポイントを強調した。面接試験終了後、結果は数日後に連絡すると説明を受けたが、会社を出て 5 分後に「すぐに戻ってきて欲しい」と電話があり、面接会場に戻ると自分一人ですぐに内定というお話を頂いた。自分の行動力を会社側は認めてくれた。とアピールポイントの重要性を強調した。

基礎学力・一般常識が必要

前田涉さん（ビジネス学部 4 年）は、人に幸せを与える仕事につきたいと思い、プライダル関連の会社を希望した。就職活動は首都圏を中心に展開。月に 3～4



前田涉さん

回上京し、新幹線などの交通費・宿泊費に30万から40万をかけた。就職活動を行っていて、基礎学力、一般常識が必要だと痛切に感じた。後輩たちには新聞を毎日読んでおいた方がいいとアドバイス。また、資格も取れるときに取得しておくべき。と実体験で感じたことを話した。

武部雄一郎さん（ビジネス学部 4 年）は「面接試験のときは、歌を歌っていった方が声が出るし自信にもなる。皆さんも実践して欲しい。また面接試験で、実際に出来ないことを出来る。とウソを言うと、次の質問に答えられないし、とにかくすぐにばれる」と自分の失敗談からアドバイスした。



武部雄一郎さん



慶長秀一さん

面接で100%聞かれること

慶長秀一さん（ビジネス学部 4 年）は、就職活動に50万から60万をかけた。「就職活動は、いろんな人と出会い人生経験になる」と言い、就職活動を行っている。「面接試験などで首都圏の大学との差を感じた。知識の絶対量が必要と感じた」と就職活動の厳しさを痛感し悩んだという。多くの採用試験を受けてわかったことは、面接で100%聞かれることは、学生時代に何に一番力を入れたか。ということ。自分たち地方の大学出身者が首都圏の大学の学生たちに勝つには、自分の自信のもてる何かを作してほしい。そうすると顔がキラキラしてくるし、面接でも好印象になる。と話した。



カムタ・アネックさん

カムタ・アネックさん（ビジネス学部 4 年）はタイから来日し九州の短大で勉強していた。親戚から声をかけてもらったのが八戸に来たきっかけで、今はその親戚が経営するタイ式マッサージを勉強しながら手伝っている。数年後には、この八戸市でタイ式マッサージの店をオープンしたいと夢を語った。

発表会終了後、5 人の体験を聞き終えた後輩たちは、各々個別に面談し真剣にメモを取っていた。

この日、発表会で就職活動の体験を話した彼ら 5 人は厳しい就職戦線を勝ち抜いた自信がみなぎっていた。



12月26日(水)に課外活動報告会が八戸プラザホテル(富士の間)で学生・教職員・外部関係者の方など約200名の参加により開催された。

今年度は硬式野球部の第38回明治神宮野球大会ベスト4をはじめ、サッカー部(第87回天皇杯全日本サッカー選手権大会出場)、スケート部(第76回全日本フィギュアスケート選手権大会出場)など各方面にて八戸大学の存在をアピールした。

盛況に開催された 「課外活動報告会」

なかでも、活動2年目のビーチサッカー愛好会が予選を勝ち抜き、第1回全国ビーチサッカー大会(3月開催)への出場を決めるなど今後の活躍が期待されます。

また、硬式野球部による野球教室や、ネットワークーズによる八戸前沖さばだしラーメンの開発・八戸前沖さばブランドのPR貢献、更に Peers は中学校・高校でピアカウンセリングを開催するなど地域に根ざした活動も多く、文武共に活躍の年となった。

課外活動報告会ではこうした団体・個人への表彰や各部の趣向を

凝らした余興、豪華景品が当たる抽選会も行われ多いに盛り上がった。出席した学生は1年間の活動を振り返ると共に、新たな目標に向け気持ちを新たにしていた。



クリスマスイルミネーション点灯&クリスマスミサ

12月6日(木)に美保野キャンパスクリスマスイルミネーション点灯式とクリスマスミサが行われた。

イルミネーションは1997年より行われており、今回で12回目になります。今年

は、98年度卒業生が寄贈した高さ約10メートルのもみの木を中心に八戸大学学生会執行委員が11月初旬から飾りつけを行った。作業は電飾に付いている電球および小道具のチェックから始まり、メインツリーに飾る電飾は一本の全長が13mになった。電球は少しの衝撃で割れてしまうため細心の注意が必要となります。チェック作業が終わるといよいよ飾りつけ、飾りつけ作業は11月初旬から始まったが、あいにくの天候続きで作業が難航し、点灯式前日まで準備はかかった。

点灯式当日、イルミネーションが一斉に点灯されると飾付を行った学生・出席者から歓声が上がっていた。

クリスマスミサは1999年から行われ、今年で9回目となる。今年は、塩町カトリック教会の首藤司祭様をお招きして八戸大学・八戸短期大学図書館内チャペルで行われた。ミサが始まるとチャペル内に重厚なオルガンの音が鳴り響き、首藤司祭様の聖書朗読・聖歌合唱など厳粛な雰囲気の中ミサがとり行われた。

イルミネーション点灯式・クリスマスミサ終了後にはクリスマスパーティーもあり、参加者は一足早いクリスマスを楽しんだ。

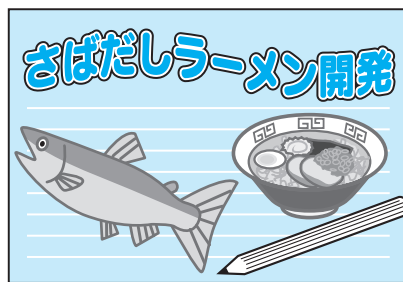


八戸大学の石原慎士准教授が顧問をしているネットワークーズが、八戸前沖で漁獲したサバでだしを取った「八戸前沖さばだしラーメン」を開発した。

これは、八戸前沖サバを地域ブランド化する研究の一環で、八戸港の主力魚種の一つであるサバを観光客らにアピールしようと取り組んだもの。現在は八戸市妙の「里山の駅」で売り出している。

さばだしラーメンは、市内の加工業者から調達したサバの頭と骨でだ

しを取り、サバ特有の生臭さを抑えるため、ショウガを使用。この配分量に苦労



したという。各種イベントで試作品を提供し、アンケートを基に風味の調整をし

た結果、ちょうどいい塩味スープに仕上がった。具にはサバの竜田揚げやワカメを使った。大村晃弘(ビジネス学部2年)代表は「まだ完成度は高くないが、サバでだしを取ったこれまでにないラーメン。もっと具を工夫し、しょうゆ味やみそ味も開発して、八戸の味として定着させていきたい」と話している。

このさばだしラーメンは、2月11日より、八戸市十三日町のタケダスポーツビル4Fでチャレンジショップとして販売される。



日頃から、野球部の運営ならびに活動に対し、教職員の皆様方から多大なるご支援を賜り心より感謝申し上げます。

おかげさまで、東北3連盟・北海道2連盟の王座決定戦において優勝し、3年ぶり2回目の明治神宮大会への出場を決めました。

本学は、全日本大学野球選手権2回戦で敗退した関西国際大学と1回戦を戦い4-0で勝利を収めました。この試合は、2回2死1・2塁から片葺翔太捕手(3年・北陽)のタイムリーで先取点を奪ったものの細かいミスが重なり終始おされ気味の展開でしたが、5回2死1塁から村尾賢吾二塁手(3年・豊川)のヒットを右翼手が後逸し2点を追加。続く岩本康平遊撃手(3年・上宮太子)の本塁打で4点目。この追加点により、エースの

「神宮大会を振り返る」

櫻田裕太郎投手(2年・横浜)が6回以降を完全に抑え完封で勝利しました。このチームの特長ともいえる「粘り強さと不思議な勝運」が発揮された試合でした。続く準決勝は、全日本選手権で優勝した早稲田大学との対戦でしたが、3回に相手のミスと岩本康平遊撃手の犠飛打で2点を先制するものの、4回には2点差を追いつかれ5回に逆転を許し2-3で敗退しました。春の王者に対し、手も足も出せず完敗でした。

この敗戦は、全て監督である私の責任であり、指揮官としての無力さを痛切に知らされた一戦であり、今なお心の底からあふれ出す悔しさを感じています。

「勝利には勝因が敗退には敗因が」というように勝敗を決する要因が必ず刻まれます。その要因を、洗い出し来季へ向けて更なる進化を遂げていきます。

去年は、06年の超低迷期から飛躍的な選手

の成長と、彼らの不思議な運を感じた07年でした。この08年は全国制覇を成し遂げるために、選手という個を活かしチームという組織を確立させ、一同が一丸となり死力を尽くす所存です。

今後とも、皆様方の更なるご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

八戸大学硬式野球部
監督 藤木 豊



「八戸大学」OB&OG訪問 part8



税理士試験に合格した
門脇輝明さん

プロフィール

岩手県出身、水沢高校→八戸大学商学部→北海道情報大学大学院経営情報学研究科修了。現在(株)IBC岩手放送総務局経理部勤務。昨年冬、税理士試験5科目合格を達成した。大学時代はウインドオーケストラサークルに参加したほか、日商簿記講座の講師を務めた。

Q. 5科目合格おめでとうございます。率直に今のお気持ちは？

A. 大学在学当時から受験に取り組んできたため、10年以上の歳月を要しましたが、5科目合格という当初からの目標をようやく達成できてほっとしているというのが率直な気持ちです。

Q. 八戸大学に入って簿記に出会い、1級合格したわけですが、何がきっかけで簿記さらには税理士試験に取り組もうと思ったのか？

A. 入学前、将来の目標は違うものを持っていたことから、入学して数週間は一切自分は何をしていけばいいのかと本当に悩んだりもしていました。しかし、課外講座で簿記検定の受験対策が行われるということを知り、特にも入学当時(平成7年)は、バブル経済崩壊後の不況の真只中であつたことから、何か資格をと思い、とりあえず簿記に取り組むことにしたのです。

その後、幸運にも3級、2級そして翌年には1級と合格することができ、さらにはそれよりも上、つまりは国家資格である「税理士」を目指そうと思いました。

Q. 簿記以外の面で、学生時代の思い出を聞かせてください。

A. 多くの良き友人に恵まれ、勉強や遊びにと、とても充実した4年間を過ごせたことであり、これは今の自分の人生にとって大きな財産となっています。

また、4年間生活した八戸がとっても好きになりました。居住している盛岡と八戸は割と近いので、今でも結構行き来しています。

Q. 5科目合格まで辛かったことはありますか？

A. 一番辛かったのは2科目目を合格した平成11年の後、3科目目に合格できた平成16年までの約5年間です。この間も平成13年以外は毎年受験していましたが、結果がついてこないもので、さすがにもう

やめようと思ったこともありました。

Q. 最後に学生・教職員にメッセージをどうぞ

A. 試験の合格は1人ではできません。これまでの多くの方々のおかげでこのことだと思います。八戸大学の教職員の方々には、在学当時はもちろんのこと、卒業後も応援してくださり大変感謝しています。

今、地域の発展が必要なときです。大学のある青森県、私が仕事をし、居住している岩手県をはじめ東北地方にはその発展のための力があると確信しています。八戸大学が地域社会を活性化できる多くの人を輩出されることを祈念しております。

学生の皆さんにはどんなことでもいいので、何かに熱中してください。大学生の時はそれができる最後の時間です。この時間を大切にしてください。

そして、その熱中するものが「資格取得」である方へ。

精一杯の努力を続けてください。特に難関資格ともなると、時には「自分は合格する能力はあるのだろうか？」などと考えてしまいがちですが、自分に限界を作らず、あきらめず、最後まで頑張ってください。

受験は、周りの多くの方々の応援があつてこそできるものです。その方々への感謝の気持ちを忘れないでください。合格後はたくさんの笑顔が待っています。その笑顔のために頑張ってください。

平成19年度保育者養成懇談会開催

平成19年11月29日(木)八戸プラザホテルにおいて、平成19年度保育者養成懇談会（八戸短期大学幼児保育学科主催）を開催した。この保育者養成懇談会は、幼児保育学科が常日頃からお世話になっている三八上十三・むつ地区および岩手県北の実習対象施設関係者を対象に、本学が持っている知的財産の情報提供や教員の研究報告を行っている。

今年度は、保育者養成懇談会の参加人数は66名（幼稚園18名、保育園32名、施設16名）。内海隆学長補佐の開会挨拶を皮切りに会が進行。全体報告では、外崎充子学科長から「保育行政について」の話がなされた。続いて本学教員が行っている研究報告は、研究報告①で上村裕樹講師が「保育者をめざす学生が抱く、理想の保育者像について」の報告を行い、研究報告②では岩館千歩講師と三島隆章



講師が共同研究報告として「幼児の体力について」の報告を行った。

全体報告の後には、幼稚園、保育園、施設の3グループに分かれての分科会を開催。内容は、実習に関しての御礼・説明および今後継続のご協力のお願いと実習や就職に関しての各園・施設の方々のご意見の拝聴および意見交換の2点について話し合われた。分科会終了後には、参加者との懇親会を開催した。限られた時間ではあるが、有意義な会となった。

第1回八戸短期大学公開講座開催

平成19年11月12日(月)から11月18日(日)の日程で、第1回八戸短期大学公開講座を開催した。この公開講座は、八戸短期大学が持っている知的財産を地域住民への提供と、リカレント教育の一環として卒業生に役立ててもらふこと。そして学生にも通常の講義では学ぶことができない専門的な部分を提供し、幅広い

知識やスキル獲得をしてもらうことを目的として行われた。

第1回目の公開講座ということもあり、開催場所は本学で行い、開催時間は仕事に就いている人が参加できるように配慮し、18:30~20:45とした。土曜日、日曜日は10:00~12:15と13:15~15:45の2部開催として行った。全講座で31講座（保育分野・福祉分野・情報分野・心理分野など）を用意し、その中から受講

生が興味のある講座を選択して講義を受けることができるように設定した。公開講座に参加していただいた人数は延べ171名。受講した方々から、様々な意見をいただくことができた。この意見を参考にしながら、地域に根ざした短期大学を目指し、今後も地域のニーズに応えていきたい。

特別養護老人ホームにエコバック寄贈

平成19年12月11日(火)八戸市内の特別養護老人ホームへ八戸短期大学ライフデザイン学科1年生らが訪問し、エコバックとイーゼルを寄贈した。これは、講義「NPO論」で設立された模擬NPO「グリーン」のメンバーによるもので、八戸市の海・山・まちの環境保全を図るためにエコ普及啓発活動の実施を目的として行われているもの。

この日寄贈されたものは、学生それぞれが着なくなった古着を持ち寄り再利用

して製作したエコバックと、八戸市内にある海岸の清掃活動で拾い集めた流木を組み立てて製作したイーゼル。

寄贈式では、模擬NPOグリーン理事長の萩原由佳さん（ライフデザイン学科1年：光星学院高校出身）より「古いものを再利用して作りました。お使いください」とあいさつをして、利用者に笑顔で手渡した。



調理実習 「学外現場実習」

平成19年11月21日(水)八戸プラザホテルとよこまちストア新井田店で、八戸短期大学ライフデザイン学科の施設見学が行われた。学生達が調理の現場を見学する



ことにより、それぞれの施設がその目的にあわせてどのような設備で、また実際の調理はどのように行われているのかを把握する。そして、調理に関する知識・

技能を高めるとともに、職業イメージの醸成へ繋げることを目的とした学外調理現場である。

八戸プラザホテルでの見学は、取締役総料理長の蛭子義美氏からホテル内の調理について様々なお話を聞いた後、アーバンホール内の調理現場を見学させて頂いた。和・洋・中に分かれてある厨房を蛭子氏が先頭に立って説明をし、学生達は今行われている作業を見ていた。

次に訪れたのはよこまちストア新井田店。総務部業務改善推進担当の小川幸男



氏をはじめ、複数のスタッフが迎えてくれた。3つのグループに別れ、店内の陳列や機械の説明、各部門の仕事内容やよこまちストアの説明など。様々な説明を聞くことができた。

学生達は、日頃から何気なく利用している施設の中を見学することができ、「食に対する職業イメージができた」「非常に参考になった」などと話していた。

商品学Ⅱ 学外現場実習



12月11日(火)ライフデザイン学科2年生が八戸市沼館地区にあるショッピングセンター「ピアドゥ」に、商品学Ⅱの講義による現場見学を行った。今回はピアドゥの目と鼻の先にある、ショッピングセンター「ラピア」の現場見学を行ったが、今回は学生達の強い希望もあり、工業都市八戸の中で特に競争意識を持っている、ショッピングセンターの相違を探る目的で足を運んだ。

ピアドゥは創立から10年経過しているが、設立前は八戸臨海開発株式会社が機転となり、当初造船場や網倉庫など漁業が賑わっていた場所に目を付け、沼館地区再開発事業を行い今に至っている。名前の由来は、「ピア」は埠頭とか海に近いという意味を示し、「ドゥ」は行動するという意味。「海の近くで何かをしよう」という意味合いで親しまれてきた。そして説明の中で八戸臨海開発の熊谷氏は、「ピアドゥ内で最も力を入れているのは、防犯と防災である。常にお客様に対して、全従業員が安全・安心を確保することを心掛けている」と話していた。

学生たちは、前回の見学とはまた違う、防犯・防災の取り組み方、商品管理の工夫などに関心を寄せていた。また実際に売り場に足を運び、店頭に並ぶ様々な商品の相違に大変興味を示していた。



実習報告会



平成19年12月12日(水)八戸大学会館で、八戸短期大学幼児保育学科による平成19年度実習報告会を開催した。本学幼児保育学科では、保育園や幼稚園、施設で合計48日間の実習がある。この実習報告会では、実際に実習を行った2年生が実習先で学んだことや体験したことを報告するだけでなく、これから実習を行う1年生への学びの場にもなっている。



今年はチャリティー第二保育園、マリアンハウス幼稚園、知的障害者更生施設清岳園で行った実習生6名の報告が20分間ずつ行われ、スライドのほかに実際に作った作品を見せて報告をした。参加した幼児保育学科の学生たちは真剣な表情で聴いた。

ゼミナール発表会開催



平成19年12月19日(水)八戸大学会館で、幼児保育学科によるゼミナール研究発表会を開催した。本学のゼミナールは、10名前後の少人数で行っており、「廃品を使った造形活動」「手遊び・指遊び・お遊戯」「食べ物から考える子どもの健康」「子どもの体力・運動能力」など、中身が濃く多彩なテーマの研究発表が行われてお

り、このゼミナール発表会は約1年半にわたる研究活動としての集大成の場として位置付けられている。

学生たちは、今まで一緒に研究をしてきた仲間と気持ちを一つにして、楽しく・元気に発表していた。また、みんなの前で行う発表は、学生たちの良い経験となり、そして自信にもつながっているようである。



「星の子音楽会」に幼児保育学科の学生が出演

平成19年11月7日(水)八戸市公会堂にて第27回光星学院『星の子音楽会』が行われた。毎年開催されている『星の子音楽



会』に、幼児保育学科の学生による合唱やウィンドアンサンブルによる演奏を行っているが、合唱や演奏の他に今回はリトミック表現「不思議の森」を幼児保育学科の学生15名が幼稚園の子どもたちと一緒にやった。

リトミック表現「不思議の森」は、子どもが感じたままの動きに焦点をあて、形に捉われない子どもの視点からの取り組みである。形を最初から決めず、子どもたちと「森」について、様々な見たり触れたりしながら話し合い、そしてピアノの即興に合わせて動くとい



うものである。各パートに学生と子どもたちがグループを形成。その役になりきり力強く、そして時には優しく体を使って表現する。音楽に合わせて楽しく踊る姿を見ていた父兄からも盛大な拍手が送られていた。

自動車科研修旅行を終えて

自動車科 2年 長瀬綾子

今年度の自動車科の研修旅行は11月6日～8日までの二泊三日の日程で、生産工場（二カ所）と東京モーターショーの見学を行いました。

日産自動車いわき工場では、低燃費、軽量・コンパクトの最新鋭エンジンの組



み立て行程やその検査行程を見学し、ホンダ技研埼玉製作所では溶接をはじめエンジン組み立て、ドアやフロントガラスの装着等、一台の自動車が完成していく様子を見ることができました。どちらの工場も最新鋭の設備（生産ロボット等）を導入し、コンピュータにより統合管理されていました。また、二酸化炭素の排出量削減や資源の循環などを行い、世界中で問題になっている環境問題に様々な取り組みをしていました。粉塵・騒音等が出ない作業環境造りも徹底していて、工場内も清潔で従業員達も快適に作業しているように感じました。初めて生産工場（生産ライン）を見学し、組み付けられる部品の多さや部品の配送の仕組み、

ロボットによる作業精度の高さや自動車が完成するまでのスピードに驚きました。東京モーターショーでは、斬新なデザインの自動車や操縦性を追求した自動車などが会場いっぱいに表示されていました。やはりここでも、環境問題（排出ガス）への取り組みが各社の話題になっていて、有害ガスが出ない燃料の使用や各種の電池自動車など、バスやトラックに至るまで、自動車産業の技術の進歩を実感するモーターショーでした。

今回の研修旅行で様々なものを見ましたが、このような機会でなければなかなか見ることが出来ないものも多く、とても貴重な体験でした。



環境省の啓発推進事業である燃料自動車の試乗会が平成19年10月18日(木)に自動車科2年生を対象に行われた。自動車から排出される排気ガス、二酸化炭素などが与える地球温暖化問題や大気汚染などの環境問題解決に取り組むための事業で、平成15年度から行われている。燃料電池自動車は、ボンベに詰め込んだ水素と空気中の酸素の反応により発生した電気エ

ネルギーを動力源としモーターを駆動して走る自動車で、走行中は有害な排気ガスは出ない。

当日は2年生28名が交代で運転し性能や操縦性を確認した。従来のガソリン車

次世代低公害車 試乗会

に比べ高いエネルギー効率が得られるため、加速性もよく快適な乗り心地に驚きの声があがった。しかし、一般への普及に関しては水素ステーションの設置や自動車本体の価格の低減（月額リース料80

～120万円で実際の製造コストは1台約1億円と言われる）とまだまだ課題が多く残っている。現段階では公共機関や関連企業などへの導入が目立つが、将来的には様々な課題をクリアし、一般への普及が広がり生活環境問題が解決され、自動車整備に関する内容も変化していくことになると感じた。



介護福祉科 2年 中里絵理

12月8、9、15、16日の4日間、介護福祉科2年生22名が日本赤十字社救急法の講習会にて、次のことを学びました。座学では急病とけがの観察ポイントや処置方法を、実技では包帯法、心肺蘇生法、AEDの使用方法について学びました。

私達は高齢者や障害児（者）の方々が利用する施設で今後働いて行くことにな

日本赤十字社救急法の講習会に参加して

ります。そのような施設で、もし急病者が出た際には一番身近にいる介護福祉士の私達が適切な一次救命処置を一刻も早く行い、利用者の命を繋ぎ止められるように行動していきたいと思います。また日常生活の中でもこの講習会で頂いたキットを携帯し、今後も講習会に参加し確かな知識と技術を持ち続けていけるようにします。

私達がこれから働く施設には、必ずしもAEDが設置されていないのが

現状です。就職した際はより多くの施設でAEDが設置され、一次救命処置が行える様な環境作りの拡大に協力していきたいです。私達のために今回ボランティアで講習の教員を引き受けて下さいました方々、本当にありがとうございました。



教育講演会開催される



昨年11月10日(土)午後1時30分より八戸プラザホテルアーバンホールにおいて、お茶の水女子大学教授の室伏きみ子氏を招いて教育講演会が開催されました。

「子育てを科学する…ストレスに負け

ない子どもに育てるために！」という演題で約百名の参加者に一時間半にわたって講演しました。「子どもは失敗するのは当たり前」「失敗した方が強くなる」「多少のストレス経験が子ども達を強く育てる」「温かい目で成長を見守る親の姿勢が大切」などストレスを子育てに有効に活用する内容でした。質疑応答では父親の役割についてどうすればよいのか、心のトレーニングとして良い方法はどんな方法があるのか、などの質

問に丁寧な解説で解答をいただきました。参加者からは、今後の子育てにぜひ参考にしていきたい、などの声が多く寄せられ盛況に終えることができました。参加下さいました皆様には心よりお礼申し上げます。

このような講演会を平成20年度も計画しておりますのでご参加下さいますようお願いいたします。



生徒からの発信！

生徒会新聞「一揆一撓」



生徒会編集委員会では、およそ一カ月に一度のペースで、生徒会新聞「一揆一撓」を発行しています。今年度は第八号まで発行しており、今後は新校舎完成を記念し特別号を発行する予定です。内容はその都度異なりますが、生徒からの発信をいつも心がけています。高総体を青森まで取材しに出かけたことや八戸大学学友会との交流など初の試みを今年度は積極的行いました。また、「opinion」と題して社会に対する自分の考えや意見、実習を通して学んだことなどを委員以外

の生徒からも募ると共に、学校行事のアラカルトや新校舎の『建設状況』を紹介するなど今年らしい記事も満載でした。

当初は、何を書けばよいのか悩んだり、自分の記事に自信が持てなかったりと不安を口にする委員も見られました。しかし、発行を重ねていくにつれ、文章を書くことに慣れていくと共に新聞を読んでもくださった方々からの励ましの言葉やアドバイスを随分勇気づけられ、積極的に



活動に取り組むようになっていきました。

印刷を鮮明にすることや枠組みの仕方などまだまだ課題はありますが、これからもたくさんの人々に楽しんでもらえるような新聞作りを目指していきます。(ご協力よろしくお願いします。)



2007年度は LUSTERS にとって大きな飛躍の年となりました。東北大会優勝に始まり、目標であった全国大会出場、北日本大会優勝という成績を収めることができました。また、今年はテレビや新聞の取材もあり、イベントの出場依頼も多く、

● 原点を忘れずに ● チアリーディング部

おかげさまで多くの方々に LUSTERS を知ってもらうことができました。

しかし、結果は良かったかもしれませんが、それまでの過程や内容は決して満足するものではありませんでした。チーム全員が納得して心から楽しむチアができていたのか……。目標を達成した喜びよりも、課題が残ったという悔しさの方が大きかったように思います。

これらの経験の中から部員の一人一人が多くのことを学んだようです。これからはメンバー自ら作り上げていくようなチームに成長させたいと思っています。そして何よりもチアを始めた頃の初心の気持ちを忘れずに、「原点」に戻ることの大切さを学んでほしいと思います。



世界に羽ばたく光星三銃士 レスリング部

八月、佐賀インターハイ決勝で壮絶な延長戦を演じた山内拓真選手は、戻ることなくその足で台湾に向かった。そこでは、レスリング強国イランのコーチ陣が驚嘆し抱きついて彼を祝福し、その姿を台湾国営テレビはインタビューを交えて放映した。決勝まで失点ゼロの圧勝で史上五人目のU18アジア王者になった。それから一ヶ月後の九月、今度は葉澤謙選手が胸に日の丸をつけて韓国サムソレスリングスタジアムのマットに立った。

身体能力の高さを充分見せつけた闘いであった。そして新年一月の今、佐々木 孝選手が米国ワシントン州を二週間日本代表として転戦している。山内選手と佐々木選手は今春卒業して自衛隊体育学校に進み本物の競技者としての道を歩み始める。葉澤選手は最後の年を迎え高校王者の座をねらう。それぞれがそれぞれの夢に向かって世界に羽ばたく。「大和魂」そして「光星魂」を胸に。



葉澤謙 選手（岩手・山田中出身）写真・左
山内拓真 選手（横内中出身）写真・中央
佐々木孝 選手（階上中出身）写真・右



吹奏楽部一年間の活動の中で最大のイベントは毎年夏に行われる吹奏楽コンクールです。毎日暑い中、遅くまで練習に取り組み、ひとつの曲をみんなで考え・取り組み、どのように表現するか、ひとりひとり真剣に音楽・楽器に向かい合います。その時期が過ぎるとひと月に約2～3回、町内会の夏祭りやパレード、

また、パレードの依頼も年に数回受け出演させてもらっていますが、パレードはステージ演奏とは違った難しさがあり、生徒たちも勉強になるので大変感謝しております。

♪ 地域に貢献 ♪ 吹奏楽部

病院での慰問演奏、市のイベント、クリスマスコンサートなど、ご依頼をいただき演奏させてもらっています。年齢層は幅広くそのときに合わせた選曲など、楽しんでいただけるステージを考え演奏しています。

このように地域の皆様から支えられ、演奏する機会を与えてくださった方々に心から感謝いたします。

これからもさらに多くの方々に光星学院高等学校吹奏楽部の演奏を聴いていただき、喜んでいただけるよう練習に励んでいきたいと思います。関係方々のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



トレース技能検定一級8名合格！工業技術科



＊トレース技能検定一級合格者＊

磯島 芳広（湊中出身） 写真左
磯野 瑞穂（八戸二中出身） 写真中央
木村 純一（市川中出身） 写真右

トレース技能検定試験は、文部科学省後援、財団法人実務技能検定協会主催で実施している検定で、トレーサーとしての専門的知識及び技能の程度・能力を判定する試験です。

一級とは、「トレーサーとして通常の到達しうる最高の技能水準の段階にあると認められる者が有すべき技能」「専門専攻するトレース技能において“師範格”に値する」と定義されており、実務上のプロトレーサーとして通用し仕事を遂行できる程度の技能・知識が要求されるその最高位に位置するものです。

この一級の受験対象者は一般社会

人、大学を含む上級学校も含まれ、例年の合格者数は全国で数十名、各県で数名程度という難度のとても高いものです。

工業技術科では、この一級トレース技能検定に5年前より取り組み始め、一昨年初の合格者を出すことができました。そして今年度は一挙に3名もの合格者を出すことができ工業技術科として大きな話題となりました。そして歓喜、驚きと同時にこれからの指導により一層力を入れていこうと奮いたたせてくれました。これからも多くの生徒に一級トレース技能検定の資格を持たせ卒業させてやりたいと思います。因みに、2級は50%、3級は90%の合格率を達成しています。

普通科の大学進学について（近況）

今年度（19年度）の普通科3年生の在籍は113名で、そのうち進学希望者は81名（約72%）です。すでに推薦で青森公立大学、東京理科大学、実践女子大学など40大学以上に合格者が出ており、追って私立大学や国公立大学の合格者が出るのでもっと高い値が期待されます。

また、今年度のセンター試験は、1月

19日(土)、20日(日)の両日に行われました。本校からは特進クラス及び総合学習クラスから受験し、この中にはすでに青森公立大学に合格した二人も含まれています。最後まで自分の持っている力を試す姿に感動を覚えます。去年は、東北大学、秋田大学、山形大学、北海道教育大学などに合格していますので、今年度はそれを

超えるように生徒も職員も頑張っており、12月は28日まで、1月は4日から毎日学校に出校し補習を実施しています。このように一生懸命頑張っている姿を見ると、必ずや良い結果を出してくれるものと確信しています。また、自分の目標に向かって常に努力している生徒達のひたむきな姿を高く評価したいと思います。

連載

変わりゆく 校舎

④「羽ばたきへの準備」

外壁工事がほぼ完了し、足場が解体されると校舎の全容があらわれ、ハッキリと目に映るようになりました。校舎の外装タイルが輝いて見えます。茶系統のタイルは美しくも重厚で、落ち着いた雰囲気を醸し出しています。パンフレットにある完成予想図とは異なり実物は迫力が感じられます。晴れた日には、校舎の色とバックの青空とのマッチングがすばらしく、青の中に校舎がそびえ立つように浮

び上がります。工事現場の風景はいまモノクロからカラーに変わりました。

反面、内装工事はあまり目に見えてきません。日が暮れたときに室内に電灯が灯されるので、そのとき初めて、内部の様子が見え隠れする程度です。しかし、着々と内部工事は進んでいるようです。まるで羽化直前のさなぎのように、内部が蠢（うごめ）いているかのようです。羽ばたきはもうすぐです。まもなく校舎は完成し、未来に向かって飛び立ちます。

残るは外構工事。今回は美しいキャンパスの全景をお披露目できるでしょう。斯うご期待。





今年度の修学旅行は平成19年12月3日(月)～8日(土)の5泊6日で関西・東京へのコースで実施された。

1日目は、野辺地駅から京都に入り、清水寺を見学した。ライトアップされた清水寺は、とても素晴らしい景観で歴史の町を満喫することができた。

2日目、京都市内見学。平安神宮・金閣寺・太秦映画村・北野天満宮と回り、途中多少小雨が降ってきて、心配された

平成19年度修学旅行

が、大きな崩れはなく予定通り旅行日程を進めることができた。また、集合時間の厳守など生徒のマナーがとても良かったことが印象に残っている。

3日目は晴天の下、大阪城で記念写真を撮り、上方お笑いの本家である「なんばグランド花月」で爆笑の渦に巻き込まれた。夕食は、神戸の100万ドルの夜景を堪能しながらの神戸港ディナークルーズでバイキングによる食事を取り、生徒は充分に腹ごしらえができた。

4日目は、JR環状線を利用して、ユニバーサルスタジオジャパンに到着。多くの生徒が楽しみにしていたUSJで、アトラクションコーナーを見て、買い物にと時間いっぱい過ごすことができた

ようだ。その後、新幹線で東京に移動し、格式の高いホテルで、生徒は少し緊張した面持ちで夕食を取った。

5日目は東京自主研修。9時から各班ごとに出発し、それぞれの目的地を目指した。ホテルがE電の駅のすぐそばということもあり、生徒は迷うこともなく、集合時間の午後6時には一人も遅れることなく全員が時間を厳守し、先生方の心配をよそに生徒達の行動はとても素晴らしく嬉しく思った。

6日目は東京から野辺地までの帰路。JRの車両が八戸で点検のため多少遅れたが、校長先生はじめ、各先生方の出迎える中、無事に帰ることができた。生徒にとって、一生の思い出に残る修学旅行が無事終えられたことに感謝いたします。



今年度も、自己の職業適性や将来設計について考えさせる事を目的に、10月30日から11月1日までの3日間、2学年生徒46名が、36事業所に行って現場の方から指導を受ける事ができた。実際のな知

識や技術、技能に係わる体験を通し、学校では学ぶ事の出来ない、様々な経験を積み重ねる事となり、参加した生徒も、大変良い感想を持つことができた。

就業体験

各事業所で活躍する地域社会の大先輩を目のあたりにする事は、技能の修得だけではなく、人生を力強く歩む生き方を学ぶ事でもあり、進路指導的には良い3

日間でした。生徒が本校から飛び立つ時に「高校生活が良かった」と全ての生徒が感じしてくれる教育を目指すために、広げた専門教育の一つでありたいと思う。



アクトの翼で台湾へ

鶴ヶ崎修子（東北東中出身）

私は10月10日から13日まで3泊4日のアクトの翼に参加し、台湾へ行きました。

初めて経験する海外での生活に期待と不安を抱きながら成田国際空港から台湾へ向けて出国しました。



私がホームステイでお世話になった林

さん夫妻は日本に留学の経験があり、会話はすべて日本語で話してくれました。とても優しい夫妻で羅東市内の案内や夜市につれていってくれました。日本にはないフルーツや食材を紹介してくれて、台湾について少し知ることができました。

2日目に行った羅東高等学校では、生徒のリリアンさんとリボンさんが学校を案内してくれました。とても感情表現が豊かで、明るく接してくれました。一番心配していた言語の違いについては、片言の英語とメモ用紙に漢字を書いたりしてコミュニケーションを取りました。自分がもっと英語が言え

ればもっと深く交流できたのにと反省する部分もあったけど、楽しく過ごすことができました。

台湾に行ったことで日本には学べない事、知らなかった事を学び、体験することができました。日本ではあたりまえの事でも台湾では通用しない事も沢山ありました。

台湾に行って毎日が発見と学習の連続でした。アクトの翼に参加して、自分自身とても成長したと思います。知識が増えただけでなく、交流の輪が広がり、今まで狭かった視野を広くすることができました。

アクトの翼に参加して本当に良かったと思います。台湾での出会いを大切にしたいこれからも交流を深めていきたいと思っています。

八戸短期大学附属幼稚園

やさしくあたたかい幼稚園をめざして

「おはようございます！」朝早くから、園児の元気な声がエントランスホールに響き渡ります。お父さん、お母さんに送られてくる子、バスでやってくる子、続々登園して、全員160余名が揃うと、各教室で今日のプログラムが開始されます。先生を一心に見つめる子どもたちの目、目、目。広い廊下には冬の日差しが一杯に差し込んでいます。

八戸短期大学附属幼稚園は平成19年4月に開園しました。当初戸惑いを見せて

いた子ども達も、今ではすっかり慣れ、友だちや先生と交わりながら、日々多様な経験を積み重ねています。1月は「餅つき会」、2月は「豆まき」、3月には「お雛祭り」もあります。教育目標に「明るく元気な子」「自分の考えをもてる子」「心豊かな子」をかけた、私たち教員は全力で子どもたちの育成にかかわっています。

短大幼児保育学科との連携、充実した預り保育、最新の教育環境等を特色としながら、子どもたちにも保護者の方々にも、そして地域の方々にも「やさしく、あたたかい幼稚園」であることをめざして、日々活動をしています。教員ひとりひとりが「やさしく、あたたかい」存在であることを合言葉にしています。



聖アンナ幼稚園

モンテッソーリ教師の役割とその思い

日々、喜々として満足しきった表情で生活する子ども達と過ごす中で私たち教師は、絶えずどのような援助をすべきかを考えています。

- まず、子どもは絶えず動いているという事実です。
 - *これは今、発達しようとしている機能を絶えず動かしたいと願っている。
- 作業を何度も繰り返す
 - *子どもの内的欲求がそうさせる。

- 自分の好きなことをすればする程、爽やかな良い顔になる。
 - *自分が選んだ作業だから心の満足感が見える。
- 押し付けられていない
 - *心、精神が解放されている。
- 最後までやり遂げようという姿勢が見える。

ここに私たち教師の、環境を整える重要な役割があります。例えば、手や指先を動かしたい時は、それらの練習が出来る具体的なものが用意されているということです。

子どもは最初からうまく出来ません。何度も何度も手伝ってもらいなが



ら一人で出来るようになっていくのです。大切なのは、“大人が子ども達に、子ども自身の行為や、状況、それに事が起こった時の主となるような手段を提供すべき”だということです。子どもは環境から吸収し、人間作りの基礎を築きます。

急激に変動する現代社会です。子どもの尊い命を見失わないよう“感じる感性”を忘れないようにしたいものです。



びわの幼稚園



みんなちからもちー！



年の瀬を控えた12月14日(金)、びわの幼稚園では保護者の方々のご協力を得て恒例の「もちつき会」が行われました。

子どもたちは頭にバンダナを締め、園長からおもちの由来を聞いた後、お父様方のおもちのつき方を見学。おもちつきの歌も歌いました。続いてお父様方に助けていただきながら一人ずつ子供用の杵を持ってもちつきを体験し、ポーズを決めて写真撮影。年長さんは一人で杵を持ち、お兄さんお姉さんの貫禄を見せてくれました。杵を振り上げ振り下ろすたびに「よ

がり、幼稚園のホールは和やかな年末らしい雰囲気に包まれました。

お母様方がつき上がったおもちをあんこもち・きな粉もち・磯辺もちにしてくださいながら、子どもたちはお正月の紙芝居を楽しみました。そしていよいよお父様・お母様も

いしょー、よいしょー」と大きなかけ声が上がって、熱気むんむん。勢い余って臼の縁に杵を打ち付ける場面ではどっと大きな歓声が上

一緒に会食会。子どもたちは大きく開けた口へおもちを運び「おいしい！」を連発。口のまわりにつきな粉。ほっぺたにあんこをつけながら食べている子もいました。何度もお代わりする子がたくさんいて、お母様方はびっくりしていらっしゃいました。

お母様方は前日から米をといだり、臼・杵・もちつき機などの準備のほか、きな粉・あんこの味付けに奔走。当日は米を蒸したり、海苔を焼いたり、しょうゆだれを作ったり、つき上がったおもちを丸めたりと大わらわでした。

自宅で臼と杵を使ってももちつきする光景がほとんど見られなくなった昨今、日本の伝統を体験する貴重な機会となっています。



第二しののめ幼稚園

福寿草クリスマス会に参加

12月24日。幼稚園の近くにある「特別養護老人ホーム福寿草インスプリング様」を訪問しました。高齢者の方との交流クリスマス会でした。年中組「うさぎ組」の園児たちは、「僕たちかっこよく踊るよ」、「私は自分の名前を大きな声で言えるよ」、待ち通りそうに話している様

子が見られました。クリスマスの華やかな雰囲気の会場では、にこにこ笑顔の高齢者の皆さんが園児たちを大きな拍手で迎えて下さいました。可愛い衣装に身を包みジャズダンサーになったり、海賊や、野菜、わんぱく団等に扮して遊戯披露。自分の名前を大きな声で発表すると、沢

山の拍手をいただきました。交流会では「おじいちゃんも昔は皆と同じく子どもだったよ」、「齢は百歳になるよ」のお話に「わーすごい。いつまでもお元気でいてください」と会話が弾みました。

核家族化の進む今日、園児と高齢者の交流の場を通して子ども達に、人を思いやる気持ちや相手をいたわる心が育って欲しいと願いながら幼稚園教育の地域開放活動も教育活動の1つであると自認しています。



星の子音楽会



八戸短期大学附属幼稚園



11月7日(水)10時から八戸市公会堂を会場に、八戸短期大学附属幼稚園、聖アンナ幼稚園、びわの幼稚園、第二しののめ幼稚園の4園の年長(5歳児)、年中(4歳児)の園児が集まり、第27回「星の子音楽会」を開催した。

今回は、しのめ幼稚園、白銀幼稚園、多賀台幼稚園が統合され、八戸短期大学附属幼稚園となって初めての音

楽会となった。また今年からは年中(4歳児)の園児も参加し、八戸短期大学幼児保育学科の学生との音楽表現で見事なコラボレーションを見せた。

年長児は各園ごとに合奏と合唱を披露し、最後は附属幼稚園全教員と短大生による特別演奏が披露されフィナーレを飾った。



聖アンナ幼稚園



びわの幼稚園



第二しののめ幼稚園



第8号表紙

光星学院高校専攻科介護福祉科：実習風景

光星学院高校専攻科は、昭和49年、光星学院高校に一種自動車整備士2級課程専攻科として開設。平成4年には、介護福祉養成課程を開設した。卒業生は1894名に上り、今までに多くの2級自動車整備士と介護福祉士の資格取得者が卒業した。



学院キャンパスだより第8号

発行 学校法人光星学院

編集 学院広報編集委員会

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98

TEL 0178-30-1411

URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>